

E C C 日 本 語 学 院

2017 年 度 自 己 評 価 報 告 書

2018 年 6 月 1 日
ECC 日 本 語 学 院 名 古 屋 校
自 己 評 価 委 員 会

1. 学校の教育理念

日本語を通じて夢が実現できる学校

【教育方針】

- 学習者の目標の実現をサポートします
 - ・進学者希望者全員の進学を実現
入学直後より、進学まで段階に応じた進学カウンセリングの実施
日本留学試験の対策授業の実施
総合科目、数学などの特別授業の実施
面接・小論文の徹底指導
 - ・就職希望者へのサポート
就職準備講座・就職活動講座・ビジネスマナー講座の実施
就職カウンセリングの実施
 - ・日本語を使った次のキャリアの基礎づくり
対策クラスで高い合格率を目指す
学習期間 1 年を超える学生全員のN2以上の合格を目指す
- 学習意欲を高める学習環境を提供します
 - ・目的意識の高い学生たちがお互いを高めあう環境づくり
 - ・多国籍の学生が学ぶ環境で、日本語でのコミュニケーション力を強化
 - ・教授力の向上に余念のない指導体制
- 日本人との交流の場、コミュニケーションの機会を提供します
 - ・スタッフ・講師の教室内外での積極的な声掛け
 - ・日本語教師養成講座の受講生による「会話の会」の実施

「総合教育機関 ECC 建学の理念」

本学は外国語教授を通じて、近代的なセンスと国際的な感覚をもった社会に实际的に活躍でき得る有用な人材を育成しようとするものである。以て国際間の人々の交流と相互理解を促進し、世界の文化向上とその恒久平和樹立に寄与したい。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 教育理念、教育方針の見直しと、教職員への徹底、外部への開示

株式会社ECCの「建学の理念」に基づき、時代とともに少しずつ変わってきた学校の様子に合わせる形で、ECC 日本語学院の教育理念、教育方針の表現を見直す。

新しい教育理念、教育方針は、教職員に徹底周知し、学生を教育・指導するための基本規範となる。

学校の教務カリキュラム、行事は、この教育方針に沿って目標を立て、実行していくことになる。また、定期的に、この教育理念、方針にそって、カリキュラム、学生指導、学校行事が実行されたか、またその成果を振り返る機会を設けていく。

2. 「話すこと」を中心としたコミュニケーションを取れる日本語習得を目指したカリキュラムへの移行開始

学生の国籍構成の変化や、年齢の多様化、目的の多様化に対して、提供する教育を対応させるための一つの段階としてカリキュラムの微調整を行う。進学教育を中心とした、試験対策を最終目標とした今までのカリキュラムを、コミュニケーション能力を伸ばすことに重心を移したカリキュラムへの移行を開始する。初級においては、授業前の1分スピーチ、授業時に学んだ文型や言葉を使った活動を。中級では調査したことの発表や、物語を作って発表する活動を。そして、上級では調査発表やスピーチ、プレゼンテーションを行うなど、各レベルで、毎学期、活動、発表、プレゼンテーションを行い、伝わる日本語を学習する時間を取っていく。

3. 就職支援指導の開始

日本での就職を希望する学生が増え始めたことを受け、就職支援の指導を開始する。日本での就職の現実を知ってもらい、どのように活動をすればよいのか、活動のマナーなどについても具体的に指導するセミナーを企画する。

日本での就職を目指す優秀な人材に選ばれる日本語学校となることを目指す。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1. 学校の理念・教育目標は定められているか	④ 3 2 1
2. 本年度の教育目標・計画は、定められているか	④ 3 2 1
3. 学校の理念・教育目標は教職員に周知されているか	④ 3 2 1
4. 学校の理念・教育目標を入学を検討している学生・保護者、留学仲介業者に告知する努力をしているか周知されているか	4 ③ 2 1
新 学校の理念・教育目標実現のための教育が運営されたか	今後の課題

目的・理念・将来構想等の周知徹底について

今回、教育理念、教育方針の表現を変更したため、今まで以上に周知徹底を図った。3月末に行ったミーティングで職員・教務職員に徹底周知し、続いて行われた非常勤講師に向けての講師便覧説明会において、説明を行った。

入学希望者に対しては、ホームページにおいて、公開した。入学前の面接・スカイプ面接を通じて、説明をしていきたい。学校の学習方針・指導方針は、教員については、年度初めに周知徹底している。学生・保護者については、入学前に面接、スカイプ面接を通じて説明する努力をしているが、一部実施していない国籍もある。今後もホームページ、SNS、仲介会社などを通じて、広く知っていただくように図っていききたい。

また、以降、理念・方針・目標に沿った学校運営が行われたかを今年度以降、評価項目として入れていく

(2)学校組織

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
5. 設置者・設置代表者・経営担当役員の適合性	④ 3 2 1
6. 組織が適切に運営されているか	④ 3 2 1
7. 校長・教務主任の適合性はあるか	④ 3 2 1
8. 校長・教務主任・専任教員・非常勤講師の職務内容と責任基準は明確か	4 ③ 2 1
9. 教育目標達成のための知識と能力があるか	④ 3 2 1
10. 生活指導担当者の職務内容と責任基準は明確か	④ 3 2 1

11. 入管事務担当者の職務内容と責任基準は明確か	④ 3 2 1
12. 取次申請者の配置	④ 3 2 1
13. 教員の採用条件と雇用条件が明確である	④ 3 2 1
14. 職員の採用条件と雇用条件が明確である	④ 3 2 1
15. 教員の研修が行なわれている	4 ③ 2 1
16. 職員の研修が行なわれている	4 ③ 2 1

学校組織について

告示校の条件にあう校長・生活指導担当者・入管事務担当者・教務主任・専任講師・非常勤講師を配置している。常勤講師、非常勤講師とも告示校条件以上の人数を確保しており、余裕のある教員運営が実現している。職員の研修については、株式会社ECCの社員としての研修が行なわれている。教員については、教務研修担当が、定期的に授業オプザブを行い、適宜教員の授業の見直しを行なっている。改善すべき点問題点があった場合は、修正の指導を行い、再度修正が行なわれたかの確認を行なっている。教員の新規採用は、教案作成、模擬授業などを経て、慎重に行われている。日本語学院で運営している日本語教師養成講座の卒業生からの採用も積極的に行っている。また、外部主宰の研修会を積極的に当校に誘致し、当校の教室を会場として提供しており、当校の教員が様々な研修に参加しやすい環境を整えている。

(3)教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
17. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 ③ 2 1
18. 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
19. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
20. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
21. 成績評価・単位認定、進級・修了判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
22. 進学に対する指導体制はあるか	④ 3 2 1
23. 告示校条件を満たす教員数を確保しているか	④ 3 2 1
24. 告示校条件を満たす専任講師を確保しているか	④ 3 2 1
25. 適切なクラス編成を行なっているか	④ 3 2 1
26. 教員に対して、指導に必要な情報を伝達しているか	4 ③ 2 1
27. 修了証書授与の条件について、説明、明示されているか。	④ 3 2 1
28. 授業にあたってはロールブックに出席状況、成績状況が記載されているか	④ 3 2 1
29. 授業にあたって学生からの要望を聞く場を設けているか	4 ③ 2 1

教育活動

毎学期(年4回)開始2週間後には学生のカウンセリングを行い、学生から日本語を学ぶ目的を改めて聞き取りし、また現状の授業についての要望があれば聞く機会としている。その結果をもって、チームティーチングを行っている教師間でクラスミーティングを行い、情報を共有し、授業の進め方の改善点などが無いかなど話し合いを行っているほか、学生の要望に応える努力をしている。

学生の出席に関しては、入学時から日々の生活指導を教員一丸となって行っていることで、「休まないで勉強することが当然だ」という意識付けができ、年間を通して、平均出席率98%となった。このことが、成績、進学、就職へとつながっていると考えている。

学生の成績、出席率などはロールブックに記録している。

(4)成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
30. 日本語能力試験の合格率の向上を図り、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
31. 進学希望者の全員進学を目指し、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
32. 日本留学試験の成績向上を図り、その結果を把握しているか	4 ③ 2 1
33. その他学生が望む卒業後進路についてのサポート体制があるか	4 ③ 2 1

成果

校外で実施される日本留学試験や日本語能力試験で毎年順調に成果を上げている。

4月学期と、10月学期には、試験対策のカリキュラムのクラスを編成し、授業を行っている。その結果、留学試験では、高得点獲得者が増え、平均も全国平均を上回る結果となった。

さらに、進学希望者に対しては、入試前に志望理由書や面接の指導を行っており、進学希望者の進学率は100%である。

また就職を希望する学生に対しては、日本での就職状況や、就職のビジネスマナーなどのセミナーを開催した。学生たちの就職に対する意識が高まり、就職を実現する学生も増え始めた。

進学実績、外部試験結果等の教育成果は毎年度データとして把握し、学校案内書やホームページ等に掲載している。

(5)学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
34. 入学時に入国オリエンテーションを行い入管知識・日本の法律について指導しているか	④ 3 2 1
35. 入学時に生活オリエンテーションを行い学生生活について指導をしているか	④ 3 2 1
36. 進学・就職に関する担当者は決まっているか	4 ③ 2 1
37. 進学希望の学生に対して、進路決定までのながれについて説明がされている	④ 3 2 1
38. 学生生活に関する相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1
39. 学生の健康診断は定期的に行なっているか	④ 3 2 1
40. 新入生に対しての住宅の提供は十分に行なわれているか	④ 3 2 1
41. アルバイトに関する指導及び支援を行っているか	④ 3 2 1
42. 交通事故等での保険等の手続き支援を行っているか	④ 3 2 1

34 35 入国オリエンテーション・入学オリエンテーション

入学時に入国オリエンテーションと入学オリエンテーションを実施している。

入国オリエンテーションは、入国管理に関する知識を指導し、日本の法律のうち学生に直接関係あるものについて指導を行っている。オリエンテーション後に区役所に行き、在留カードの登録、健康保険の加入、銀行に行き銀行口座の開設を一緒に行なっている。

入学オリエンテーションは、学校生活に関する規則などを指導している。遅刻・欠席の扱いなどのほか、災害時の行動についても指導している。

36 37 進路・就職支援体制

入学申請時より、進学希望者には日本での希望する進学先について相談に乗っている。入学直後に母語での進学説明会を行い、進学実現までの流れを説明し、不安を解消するとともに目標設定を行わせている。また、学期ごとに行なわれるカウンセリングにおいても、学生の進路を確認し、アドバイスを行っている。

就職希望者にはセミナーを実施し、就職市場の現状や、実際の活動手順などを紹介している。学生が希望する進路への進学・就職を果すまで、根気良く指導し、成果をあげている。

39 健康診断の実施

入学後1ヶ月以内に健康診断を実施、さらにその1年後にも実施している。

(6)教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
43. 校舎校地は告示校の条件を満たしている	④ 3 2 1
44. 教室は、学習に適した環境である。	4 ③ 2 1
45. 自習室が備わっている	4 ③ 2 1
46. 学生用の図書が整備されている	4 ③ 2 1
47. 防災に対する体制は、整備されているか	4 ③ 2 1
48. 避難訓練は定期的に行われているか	④ 3 2 1
49. 学校近隣の避難所などの情報提供は行なわれているか	④ 3 2 1

46 学生用の図書

自習室に各種試験の問題集などを揃え、学生に貸し出をしている。また、「ヨムヨム館」というスペースを設け、書籍、雑誌やマンガなどの読み物を設置し、自由に読める環境となっている。読む機会を作ることで、日本語を読む力がついてきており、読解問題の実力向上につながるのではと考えている。

47 48 49 防災

入学時のオリエンテーションで、地震他の災害時についての避難行動についての説明を行なっている。学校近隣の避難所への地図もオリエンテーションにて配布している。年に一度は全校での防災訓練を行なっている。

(7)学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
50. 理念・教育目標に沿った学生の受け入れ方針を決め、募集活動を行なっているか	④ 3 2 1
51. 入学希望者に学校について、入学手続きについての情報が提供されているか	④ 3 2 1

52. 入学選考料・入学金・学費についての金額、納付時期について説明がされている。	4 ③ 2 1
53. 学費の返却規定が定められ、募集要項・ホームページ等に記載されている。	④ 3 2 1
54. 海外のエージェントの選択にあたっては慎重に行なわれているか	4 ③ 2 1
55. 入学選考にあたっては、選考方法が定められているか	④ 3 2 1
56. 5 提出された書類は慎重に審査を行なっているか	④ 3 2 1

50～54 学生募集活動について

応募者に対しては、一部の国籍を除きほぼ全員に直接面接、スカイプ面接を行っている。また、2017 年より一部の国に対して、オンライン説明会を開始し、申請を検討している学生と直接、当校の特徴や方針について、詳しく説明する場を増やしている。

入学を検討している時点で、学生と直接話す機会を持つことで、教育理念、教育方針など学校についての情報を十分に伝達し、理解・納得したうえで申請をしてもらうことになる。そのため、当校の求める学生を獲得できるようになった。また入国後、スムーズに授業が受けられるよう、日本語レベルの確認や入学までの日本語学習のアドバイスをを行っている。

7ヶ国の学生の受け入れについては、海外エージェントの選択を含め、慎重に審査している。当校の運営方針に理解のあることを優先し、当然ながら学生自身の条件が当校の条件に当てはまらなければ、エージェントの推薦があっても受け入れは行わない。入国管理局の最新の審査基準の発表を踏まえ、都度、当校の審査条件も変更している。入国管理局の交付状況はよい。

51 学納金について

入学希望者や保護者に対し、募集要項やその説明の機会を通じて学費や諸経費の説明を行っている。

(8) 入国・在留関係に関する指導及び支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
57. 入管業務担当者は、研修に出席すること等により新しい情報を取得している。	4 ③ 2 1
58. 入管法上の留意点について学生に指導している	④ 3 2 1
59. 在留に関する情報を学生に伝達している	④ 3 2 1
60. 新生入生が速やかに入学後の在留カード登録を行なうように指導している	④ 3 2 1
61. 新生入生が速やかに健康保険に加入するように指導している	④ 3 2 1
62. 帰国を控えた学生に帰国時の手続きについて指導をしている。	④ 3 2 1
63. 過去3年間、不法在留者、資格活動違反者を発生させていない。	④ 3 2 1

在留管理についての指導

在留資格認定証明書が交付された時点で、入国後行わなければならないことを知らせている。入国後は入国オリエンテーションを実施し、入管法上の手続きについて指導している。スタッフが伴って在留カードの住所登録、健康保険の加入、銀行口座の開設を行なっている。資格外活動についての注意も行い、活動状況は把握している。1年後のビザの更新時には、経費支弁者からの経費支弁書に記載されたとおりの送金があったのか確認している。そのうえ追加の学費の送金を促している。学費支払いの滞りは全くない。日本語学習終了時の手続きや、進学時の手続きについても説明会を行い、入管法にのっとった手続きに漏れが無いように最大限の指導に努めている。

数名の学生が、家庭の事情や、体調不良のため、途中退学となったが、出国確認を行い、告示校規定に従い、退学の報告を名古屋入国管理局に行っている。

(9)財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
64. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
65. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
66. 財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
67. 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

財務状況全般

中長期的に安定した経営基盤を構築するために、経費削減を図る一方で、設備の充実並びに教務体制の強化を図りバランスのとれた経営を行っている。財務状況については、会計上必要な各種財務資料は勿論、経営状況を把握するための各種数値が適時引用可能となる基幹システムを整備し、運営基盤を支えている。予算・収支については、取締役会で承認された中期計画、年度計画に基づき執行している。毎月実績ベースと比較し、妥当に執行されるように確認しながら行われている。内部監査室及び監査役により会計監査が行われており、取締役会・株主総会にて報告している。

(10)法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
68. 関係法令等の遵守と適正な運営がなされているか	4 ③ 2 1
69. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
70. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1
71. 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

法令等の遵守

ECCグループ全員が共有すべき普遍価値として「コンプライアンス・ガイドライン」が定められ、それらを誠実に実行するための行動基準として「役員・従業員行動規範」が明文化されている。また、役員をメンバーとする「コンプライアンス委員会」、「リスク管理委員会」、「情報セキュリティ委員会」も設置し、法律の専門家を顧問として配置するなど、法令等を遵守する体制を構築している。

個人情報の取り扱いについては、「個人情報保護に関する基本方針」「情報セキュリティ規程」「個人情報管理規程」を策定し、情報流出等を防止する厳重なセキュリティ対策を維持するとともに、個人情報取扱マニュアルをもとにした従業員への教育を継続していく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1. 教育理念、教育方針の見直しと、教職員への徹底、外部への開示

時代とともに少しずつ変わってきた学校の様子に合わせる形で、教育理念、教育方針の表現を見直した。

4月の新学期を前に、非常勤講師を含む、すべての教職員に周知徹底し、外部に対してもホームページを通じて公開した。学校の教務カリキュラム、行事は、この教育方針に沿って策定、実施される。また、定期的に、この教育理念、方針にそって、カリキュラム、学生指導、学校行事が実行されたか、またその成果を振り返る機会を設けていく。

「ECC日本語学院はどんな学校なのか」という問いにECC日本語学院にかかわるすべて者が明確に答えることができる大きな柱になった。この柱を基準に教育も、学生指導も行われることになる。

2. 「話すこと」を中心としたコミュニケーションを取れる日本語習得を目指したカリキュラムへの移行

学生の国籍構成の変化や、年齢の多様化、目的の多様化に対して、提供する教育を対応させるための一つの段階としてカリキュラムの微調整を行った。授業前の1分スピーチ、授業時に学んだ文型や言葉を使った活動を、調査発表や、スピーチ、プレゼンテーションなどの時間を大きく増やした。今後さらに求められるPPTを使ったプレゼンテーションなどに進展させていく。さらに使える日本語を教育することにシフトしていく。

3. 就職支援指導の開始

日本での就職を希望する学生が増え始めたことを受け、就職支援の指導を開始した。日本での就職の現実を知ってもらい、どのように活動をすればよいのか、活動のマナーなどについても具体的に指導する機会を設けた。セミナーは非常に好評であり、就職活動の意欲を高めることができた。学生のスキルを活かした職場への就職活動を活発に行い、その結果、2017年には9名の学生が日本での就職を果たした。今後、この活動を行っていることを広くホームページなどで告知し、広く知ってもらい、優秀な人材がECCを選んでもくれることを目的としたい。

何よりも、教育理念、教育方針の見直しが2017年度の大きなトピックとなった。学生の国籍や、学習目的が変わったことで、求められるものも変わってきており、提供する学習内容や、教職員の姿勢も変わっていく必要がある。そのためのおおきな柱を立てることができた。学生が日本に留学して、自分の目標をかなえることができるためのメニューを充実させていくことになる。

5. 2018年度の取り組む計画や目標

1. 学生や社会のニーズに合ったカリキュラムや教授法、評価方法への変更

- ・進学を目的としない学生、日本就職を目指す学生のニーズ、社会からのニーズに合ったカリキュラムの策定
- ・各レベルの教育目標を見直し、また評価方法や評価法の表現を変更する。
- ・ICT教育を開始し、教科書や教室の枠を超えた授業の展開ができるようにする。

2. 入学オリエンテーションの改善

- ・入学オリエンテーションの内容に、当校の教育理念・方針、各レベルの教育目標の伝達を含め、学生と共有をする。また、現在使用している「入学のしおり」もわかりやすく、簡潔なものにする。
- 資料も各言語PPT化し、内容が十分に伝わるようなものにする。

3. 授業外で、日本語で交流する場を提供していく

- ・授業外で、日本語を使った交流の場を提供していくよう努める。名古屋市内の小中学校での交流体験、専門学校での学校体験、当校の日本語教師養成講座受講生主催の「会話の会」など、授業の枠の外で、日本語を活用し、日本社会とつながる場を提供していく。学生が社会を体験し、溶け込んでいく一助としていく。